

令和7年度	日野市立 日野第三中学校	経営重点計画	自己評価シート	令和7年6月公表	
★学校の教育目標				★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）				日野三中 トライ!トリプルプロジェクト	
【目指す生徒像】				プロジェクト1「学びの往還プロジェクト」	
【目指す学校像】				体験を通した学びを目指し、各教科の内容の分析と意図的・計画的な指導計画づくり	
【目指す教師像】				プロジェクト2「学びの連続性プロジェクト」	
				将来の夢につながるキャリアの見える化と多様な学びの場を貫く教科・自立活動	
				プロジェクト3「みっちゅコンソーシアムプロジェクト」	
				活気ある地域を作る「みっちゅ団」をはじめとする地域との協働と校内での多職種連携	
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準	
				取組指標	成果指標
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	プロジェクト3 「みっちゅ」をシンボルとした三中意識を保護者に浸透	保護者の学校への積極的な参画を促すための分かりやすい情報発信	学校からの情報発信をスマート化（日本語の表現の工夫やICTを活用して届けやすく読みやすく）する。	4 保護者に宛てた文書のうち、従来よりも分かりやすくてきたもの 90%以上	4 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 90%以上
				3 保護者に宛てた文書のうち、従来よりも分かりやすくてきたもの 70%以上	3 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 70%以上
				2 保護者に宛てた文書のうち、従来よりも分かりやすくてきたもの 50%以上	2 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 50%以上
				1 保護者に宛てた文書のうち、従来よりも分かりやすくてきたもの 50%未満	1 学校からの文書等が分かりやすいという保護者評価 50%未満
	プロジェクト3 「みっちゅ団」との互恵関係の構築	みっちゅ団登録団体を拡充するとともに、地域行事の開催に貢献	みっちゅ団登録団体を増加し、登録団体による具体的な学校支援を依頼する。 「ほとくぼんおどり」を実行委員会と協力、連携して開催する。これを契機に地域の事業所の協力を得た教育活動を促進する。	4 みっちゅ団やほとくぼんおどりの広報を支援する発信 各事業体5回以上	4 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 90%以上
				3 みっちゅ団やほとくぼんおどりの広報を支援する発信 各事業体3回以上	3 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 70%以上
				2 みっちゅ団やほとくぼんおどりの広報を支援する発信 各事業体2回以上	2 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 50%以上
				1 みっちゅ団やほとくぼんおどりの広報を支援する発信 各事業体1回	1 地域活動に参加したい、興味をもったという保護者評価 50%未満
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	プロジェクト2 過去から未来につながる自分の学びを見通して構想	将来の夢につながる学びのキャリアが見える化	キャリアパスポートの活用頻度を向上し、「何を学んだのか」「どのように学んだのか」の生徒への意識付けを図る。小学校、小学生向けの中学校生活のガイダンスを充実させ、希望をもった進学につなげる。3年卒業時には、18歳の社会参加を想像した進路選択を指導し進路決定につなげる。	4 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 90%以上	4 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だ、と考える生徒 90%以上
				3 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 70%以上	3 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だ、と考える生徒 70%以上
				2 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 50%以上	2 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だ、と考える生徒 50%以上
				1 キャリアパスポートを活用した指導に手応えを感じる教員 50%未満	1 将来の夢を構想していくことは自分にとって有意義だ、と考える生徒 50%未満
	プロジェクト2 多様な学びの実現に向けた意識で知識の習得	多様な学びの場を貫く教科指導「自立活動」の正しい理解と個に応じた配慮	教育課程を構造的に理解し、通常の学級における特別支援教育の目的に沿った生徒理解を充実させる。合わせて、特別支援学級・特別支援教室における教科指導を充実させる。	4 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 90%以上	4 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 90%以上
				3 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 70%以上	3 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 70%以上
				2 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 50%以上	2 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 50%以上
				1 生徒の多面的理解や特性理解の共有が図れたと感じる教員 50%未満	1 先生は生徒が学びやすいように配慮していると考える生徒 50%未満
	プロジェクト1 地域社会での体験と学校内の生活の往還	地域に根差した総合的な学習の時間や特別活動等と、校内での各種活動との学び合い	より豊かな社会体験を目指し、みっちゅ団登録団体や地域事業所の後援を得た体験活動を実施するとともに、校内諸活動の見直しを行う。	4 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 90%以上	4 体験を通して自己との対話に気づき、学びの深まりを自覚した生徒 90%以上
				3 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 70%以上	3 体験を通して自己との対話に気づき、学びの深まりを自覚した生徒 70%以上
				2 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 50%以上	2 体験を通して自己との対話に気づき、学びの深まりを自覚した生徒 50%以上
				1 新たな体験の創出と校内諸活動の見直しに手応えを感じる教員 50%未満	1 体験を通して自己との対話に気づき、学びの深まりを自覚した生徒 50%未満
社会と未来に開き、みんなでつくる	プロジェクト1 総合的な学習等と各教科等の学習の往還	体験を通して得られた知識や技能を教科の内容に照らし検証し、よりよい指導計画の作成	校内研究として総合的な学習の時間の実践研究を実施する。分析して得られた教科の内容を含む部分の指導計画の教科会での検討を行う。	4 校内研究が進み、カリキュラム・マネジメントの理解が進んだと考える教員 90%以上	4 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 90%以上
				3 校内研究が進み、カリキュラム・マネジメントの理解が進んだと考える教員 70%以上	3 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 70%以上
				2 校内研究が進み、カリキュラム・マネジメントの理解が進んだと考える教員 50%以上	2 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 50%以上
				1 校内研究が進み、カリキュラム・マネジメントの理解が進んだと考える教員 50%未満	1 学校の教育計画が分かりやすく、興味が高まるという保護者評価 50%未満
※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。					